

校長室だより

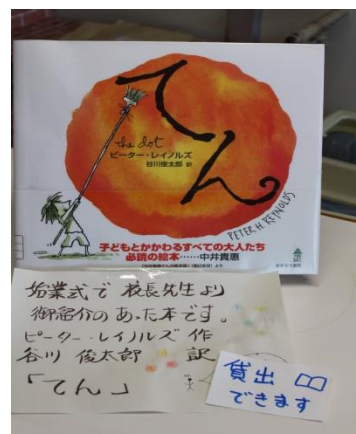
4月8日（月）

あなたにとっての“てん”は何ですか？（1学期始業式校長講話）

今日は情報科学高校の始業式。今年は元号が平成から令和へと変わる節目の年でもあります。高校生にとっては人生で初めての経験であり、この一年を記憶に残る一年にして欲しいという思いを込めて、校長講話では『てん』という絵本をプロジェクターで映して読み、こんなお話をしました。

お絵かきの大嫌いな女の子ワシテ。何も描けず教室に残ったワシテが先生に促されるままにマーカーをつかみ、半ばやけくそになって「これでどう」と紙に「点」を一つ描くところからこのお話は始まります。

苦手なことから、やりたくないことから逃げていては何も始まらないけれど、嫌々でも一步を踏み出してみるとそこから新しい世界がどんどん開け、ワシテは“てん”を描くことができますますます面白くなり・・・（生徒のみなさんにはすべて読みましたが、このホームページを見ている方はご自分で読んでみてください。）



『てん』
ピーター・レイノルズ作
谷川俊太郎訳
あすなる書房

私たち教職員はみなさんたちの「背中をそっと押してあげる」存在であり続けたいと思っています。しかしみなさん方自身が“てん”という一步を自ら踏み出さなければ何も始まりません。

「明朗 気概 思いやり」校訓にある「気概」とはこのように「勇気を持って一步を踏み出す」ことでもあると私は考えています。

みなさんにとって、ワシテの“てん”は何でしょうか？

まだ見つかっていない人もいるとは思いますが、点のつながりが線になり、線が交わって面となっていくように、みなさんが自分の一步を踏み出し、みなさんの令和元年が記憶に残るすばらしい一年になることを願っています。

この本を紹介するにあたり、商業科の先生に絵本のデジタル化を頼んだところ、本当に「あっ」と言う間に仕上げてくれました。さすが情報科学高校！

また、図書館にもこの絵本をすぐに入れていただきました。ありがとうございます。